

2021年9月実績概要（メモ）

（2021.10.21）

エチレンをはじめ各誘導品の生産は前年に対し、稼働率や定修差も相俟って軒並み増加が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 537,600トン

前月比 + 4.7% (+24,300トン)
前年同月比 + 10.0% (+48,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	+ 5.8%	+ 9.0%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 2.1%	+ 1.0%
生産増減率	+ 4.7%	+ 10.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92.0%* → 当月93.8% ← 前年同月93.0%
定修プラント：前月1社1プラント → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少を主因として多くがマイナスとなり、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、キシレンなどの12品目がマイナス。HDPE、MMAモノマー、EG、BRなどの5品目は稼働率要因等からプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、HDPE、PS、SM、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がプラス。塩ビ樹脂、EGの2品目のみがマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数減少があったが、HDPEは稼働率の上昇から大幅なプラス。LDPE、PP、PSは定修規模差や稼働率要因から僅かながらのマイナスに留まった。

前年比では、稼働率要因を主としてLDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月がユーザー側の夏季休暇や緊急事態宣言地域の拡大による人流抑制等の影響もあり出荷の減少がみられたが、当月は、LDPE、HDPE、PP、PSともに大幅なプラスとなった。

一方、前年比では、これまでは凡そ、新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きかった前年を上回る出荷が続いてきたが、当月はLDPEでプラス、HDPEは微増に留まり、PP、PSはマイナスに転じることとなった。分野別では、フィルム分野に関しては、LDPE、HDPE、PPともに前年を上回ったものの、HDPEの中空成形分野、PPの射出成形分野、繊維分野の出荷では前年割れが見られることとなった。また、PSは包装分野では前年を僅かに上回ったが、電機・工業用分野、雑貨・産業分野等では前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

前月比では、主要輸出先の中国における省エネルギー政策に伴う電力不足の影響を受け、現地の工業生産設備の稼働率の低下が見られている。当月は前月に輸出がやや減少したHDPEのほか、PSではプラスとなったが、LDPE、PPはマイナスとなった。

前年比では、ポリオレフィン3樹脂では漸減が見られており、LDPE、HDPE、PPはマイナス。唯一、PSのみは前年の水準が低かったこともあり伸び率が大きめとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPEで減少、HDPE、PPは増加、PSは前月と同レベルとなった。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPEは前月並み、HDPE、PSは低下、PPは上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともにほぼ適正レベルの範囲に収まっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LDPE	▲ 3,200	3.2	3.2
HDPE	+ 10,500	3.2	3.0
P P	+ 22,800	2.8	3.0
P S	+ 0	1.4	1.3

以上

前月からの修正を*で付記